



藻岩高校ICTだより



2022.10.25 教務進路部情報部門

◆授業紹介

ICTを活用した授業実践を藻岩高校の先生方で共有することを目的に、『藻岩高校ICTだより』を発行することになりました。第1号は50期1年次国語科「言語文化」(柴田浩昭先生)の授業実践を紹介します。

◆学習指導要領との関わり

- ①作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること〔B読むこと(1)イ〕
- ②我が国の伝統や文化について書かれた解説や評論、随筆などを読み、我が国の言語文化について論述したり発表したりする活動〔B読むこと(2)ア〕

◆授業の流れ

- ①『羅生門』を読み、率直な感想や素朴な疑問などをGoogleフォームで解答する。
- ②作品の背景や難解な語句の意味を調べてまとめた後、Googleスライドを作成してGoogleClassroomで提出する。

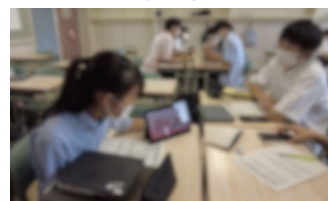
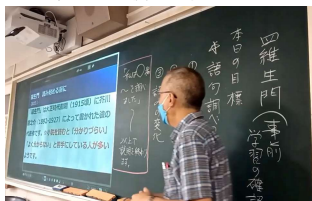
【個人で作成したスライド】



③各自で作成したGoogleスライドをグループで共有する。

【共有の手順説明】

【グループ共有の様子】



④朗読を聞き、初読に比べてグループ共有後の読解にどのような変化があったか意見を交換する。

⑤Googleフォームで上げられた疑問点を整理する。

【生徒が上げた疑問点】

- a.「きりぎりす」にはどのような意味があるのか。
- b.下人の「にきび」は何を意味するのか。
- c.老婆の答えが平凡だったことに失望したのはなぜか。
- d.「sentimentalime」という語句を使ったのはなぜか。
- e.老婆との会話で下人の考えが変わったのはなぜか。
- f.下人の行方を書かなかったのはなぜか。
- g.下人を「一人の男」と表現してまるで別の人物が登場したかのように描写したのはなぜか。

⑥グループで課題を設定して考察した後、Googleスライドを作成してクラス全体に発表する。

【グループで作成したスライド】【発表の様子】



◆授業以外での学習支援

- ①週末課題として模試の過去問に取り組む。
- ②解説動画をYoutubeで視聴する。



③書き込んだ問題の写真を撮り、GoogleClassroomで提出する。

◆柴田先生へのインタビュー

①ICTを活用した授業では、生徒にとってどのような効果があると思いますか？

今回の授業では、当時の社会状況として「天変地異」について調べた生徒がいましたが、今後古文の授業で『方丈記』を読む際や、日本史の授業で平安時代末期の社会状況を学習する際に、今回獲得した知識を活用することができると思います。

そういった横断的な学習が展開される際に、生徒が作成したデータが手元があればすぐにその情報を参照することができ、結果的に生徒が調べたことが全体に還元されることになります。

このように、「科目や教科を超えた学習に役立つ」という点がICTを活用した授業の強みだと思いま

②ICTを活用した授業を展開するにあたって、悩ましい点がありますか？

データを作成することに慣れてパターン化すると、学習自体が空洞化してしまう可能性があります。

また、感覚的な話になってしまいましたが、生徒のレポートとそれに対する教員のコメントについては、やはり手書きでのやりとりの方が想いは伝わる気がします。「手で書いたものを共有する」という身体的なやりとりは、これからの時代も時には必要だと思います。